

「平和・核廃絶」被爆アオギリにたくして

県職員連合労働組合が22日、広島市に投下された原爆で焼け焦げながら新芽を出した「被爆アオギリ」の種子から育てた苗を、徳島市万代町3丁目の県職員会館の敷地に植樹した。

被爆アオギリの木の下で被爆体験を語り続けた故沼田鈴子さんをモデルにした映画「アオギリにたくして」の上



県職員会館で植樹

映に取組む徳島映画センター(四宮洋右代表)の呼びかけに応じて、広島市から取り寄せた。

植樹式では、森本佳広執行委員長が、1982年に県議会が都道府県では初めて『非核の県』宣言をしたことについて、「来年は被爆から70年。多くの人にあらためて宣言を知ってほしい。組合として

も、平和を守り、核を廃絶する運動に力を入れたい」とあいさつ。組合員らが会館入り口脇の花壇に高さ30センチほどの苗木を丁寧に植え、広島市長からのメッセージを記したプレートも立てた。

映画は24、25日の午前10時、午後0時15分、午後2時半の3回、市ふれあい健康館ホール(沖浜東2丁目)で上

映。前売り券は千円で、JR徳島駅前の小山助学館本店で販売中。当日は一般・大学生1300円、小中高生800円、60歳以上千円。徳島映画センター(0888・6331・5847)は引き続き、自治体、団体、企業などに映画の上映や被爆アオギリの植樹を呼びかけている。

(扇谷純)